

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 29 薬学教育実務実習の今後の在り方に関するワークショップ

10月9日(月・祝) 9:30~15:00 第7会場 (東京国際フォーラム D棟7階 ホールD7)

座長

薬学教育協議会病院・薬局実務実習 関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 委員長 小佐野博史

基調講演

ワークショップの趣旨説明「体験型実習について」

東京都薬剤師会 実務実習委員会 副委員長 / 帝京大学薬学部教授 小佐野博史

タスクフォース

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	浅井 和範
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	有海 秀人
日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員	[大阪府]	伊藤憲一郎
日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員	[神奈川県]	片山 周也
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	輿水 淳
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長	[東京都]	猿橋 裕子
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	柴田 佳太
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	田極 淳一
日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員	[福岡県]	成重 賢司
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	花井 祐一
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	日高 恵子
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	[東京都]	山浦 克典

※ワークショップへの参加は事前登録が必要です(聴講のみ場合は事前登録は不要です)

受付終了

開催趣旨

平成 31 年より開始される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の円滑な実施に向けて、OBE (Outcome-based education : 学習成果基盤型教育) の考え方を取り入れた実務実習への対応を進めるために、薬学生と認定実務実習指導薬剤師が準備すべきことや、その問題点・改善策についてワークショップ形式で討議し、さらに質の高い薬学教育実務実習の在り方を検討していく。

プログラム (案)

基調講演

ワークショップの趣旨説明「体験型実習について」

ワークショップ

アイスブレイク

「討議 (1) : 方略見直し実習を受ける際、準備すべきこと、良い点と問題点」

「発表 (1) 」

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

「作業説明」

「昼食」

「討議（2） 討議（1）で抽出した問題点の改善策」

「発表（2）」

「全体討論」

「総合討論」

参加者

約 80 名（2P8S 内訳：薬学生 40 名、認定実務実習指導薬剤師 40 名）

主催

公益社団法人 日本薬剤師会／公益社団法人 東京都薬剤師会／
一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構

※参加者の途中入退場は不可。

※聴講のみの場合は、事前登録は不要です。聴講者の途中入退場は可

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 30 かかりつけ薬剤師に必要なコミュニケーション能力を考える

10月9日(月・祝) 9:00~11:00 第8会場 (東京国際フォーラム D棟5階 ホールD5)

座長

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 会長 平井 みどり

東京理科大学薬学部 教授 後藤 恵子

タスクフォース

北里大学薬学部薬学教育研究センター医療心理学部門 准教授 [東京都] 有田 悦子

城西国際大学薬学部 准教授 [千葉県] 富澤 崇

神戸薬科大学 教授 [兵庫県] 沼田千賀子

北海道薬科大学薬学教育分野 准教授 [北海道] 野呂瀬崇彦

名城大学薬学部 准教授 [愛知県] 半谷眞七子

帝京平成大学薬学部 教授 [東京都] 井手口直子

開催趣旨

「患者のための薬局ビジョン」では、かかりつけ薬剤師の役割の発揮に向けて、対物業務から対人業務への移行を明示し、専門性とともコミュニケーション能力向上の必要性が謳われている。日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会では、かかりつけ薬剤師のための ACST(アドバンスコミュニケーションスキルアップトレーニング)を構築した。ACST の最大の特徴は、患者とのコミュニケーションに必要なミニマムスタンダードレベルとあるべき姿を意識した上で、模擬患者協力型のトレーニングを受け、現状のコミュニケーションレベルと明日からの目指すべき姿を参加者・評価者が共有できる点にある。今回は、ACSTの基盤となる「かかりつけ薬剤師に求められるコミュニケーション能力」を紹介するとともに、そのトレーニングからフィードバックまでを公開する。現役薬剤師においては日々のコミュニケーションを見直すきっかけに、また、指導的立場の人には、評価の視点を学ぶことを目的とする。

(JSPS 科研費 JP16K08417 の助成事業)

プログラム

学会が考える「かかりつけ薬剤師に求められるコミュニケーション能力」の紹介。

現役薬剤師のコミュニケーション能力を評価する方法(ルーブリック※評価)の紹介。

患者対応の VTR を視聴し、実際にルーブリックを用いて評価にトライ。どの対応に基づいてその評価を下したのか、小グループで話し合う。

フィードバック場面を見て、ルーブリックが形成的評価にどのように生かされるかを確認する。

一連の流れを通して、「かかりつけ薬剤師に求められるコミュニケーション能力」への理解を深める

※ルーブリック：学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したもの

参加者

180名

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

主催

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会/公益社団法人 東京都薬剤師会

参加募集数

180 名

※参加費無料、どなたでも参加できます

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 37 くすり教育ワークショップ—あなたも小学生のくすり教育指導者に！—

10月9日（月・祝） 10:00～15:00 第22会場（JPタワー 4階 カンファレンスルームA3）

ファシリテーター

くすり教育を取り巻く法的環境

東京薬科大学 客員教授 [東京都] 宮本 法子

教育のシステム

東京薬科大学 教授 [東京都] 北垣 邦彦

くすり教育の必要性

帝京大学 教授 [東京都] 齋藤百枝美

くすり教育の帝京大学の実践例

帝京大学 助教 [東京都] 渡部多真紀

東京薬科大学 薬学部 中国医学研究室 助手 [東京都] 山田 哲也

帝京大学 助教 [東京都] 安藤 崇仁

※ワークショップへの参加は事前登録が必要です（聴講のみの場合は事前登録は不要です）

受付終了

開催趣旨

現在、医薬品医療機器等法には「国民は、医薬品等を適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を深めるよう努めなければならない。」ことが明記され、国民の薬の適正使用に関する基本知識の習得と理解が求められる時代となりました。

2012年から中学生対象の「くすり教育」が開始されていますが、セルフメディケーションが急速に推進される状況下において、年代を超えたくすり教育が必要と考えられます。

特に「三つ子の魂百まで」と言われるように、健康に関するよい習慣が習得される小学生低学年からのくすり教育が望ましいのですが、現行の学習指導要領には記載されていません。また、小学生低学年に対するくすり教育は講義形式では理解が難しいと考えられるため、様々な工夫が必要です。このような小学生低学年に対するくすり教育を促進していくためには、薬剤師が指導者となることが望ましいと考えています。

「薬剤師は、くすり教育の教育者！」を合言葉に、本ワークショップを企画致しました。子どもに薬を適正に使うことの大切さをしっかりと伝えることのできる指導者を目指して、是非ご参加下さい。

ワークショッププログラム

開会の挨拶

ガイダンス 齋藤百枝美（帝京大学）

講義とスモールグループディスカッション

- 1.くすり教育を取り巻く法的環境（宮本法子）
くすり教育に関連する医薬品医療機器法等の理解
- 2.教育のシステム（講義：北垣邦彦）

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

わが国のくすり教育の現状

3.くすり教育の必要性（齋藤百枝美）

健康教育の一環として、小学低学年からのくすり教育の必要性

4.スモールグループディスカッション

趣旨説明

目標：講義あるいは実験を通して「薬は正しく使う」ことを理解する。具体的な実験内容を考える。

テーマの例

テーマ 1. 薬と食品はどこが違うのか

テーマ 2. 薬の体内動態、薬物血中濃度

テーマ 3. 薬の 12 の約束の内容を理解してもらうための実験を考える

その他

5.発表：グループ毎

6.質疑応答

7.くすり教育の帝京大学の実践例（講義：渡部多真紀）

薬の基礎知識・薬の正しい使い方の約束、体験学習、教材の紹介

8.総合討議

9.くすり教育ワークショップ修了証授与

参加者

60 名

主催

公益社団法人 東京都薬剤師会

※参加者の途中入退場は不可。

※受講者には修了証を発行します。

※聴講のみの場合は、事前登録は不要です。聴講者の途中入退場は可。

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 39 災害時薬剤師の活動（トリアージ）

10月9日（月・祝） 12:30～15:00 第3会場（東京国際フォーラム B棟7階 ホールB7（1））

座長

東京都薬剤師会 理事 貞松 直喜

災害時のトリアージ いち薬剤師として、薬剤師班として、医療救護班の一員として

公益社団法人 東京都医師会 救急委員会 災害医療研修部会長 / 直和会 平成立石病院 [東京都]

大桃 丈知

※実習への参加は事前登録が必要です（聴講のみの場合は事前登録は不要です）

受付終了

開催趣旨

災害発生時には、薬剤師にもトリアージが求められている。

トリアージ研修は医師会では頻繁に行われているが、薬剤師に対する研修はあまり開催されていない。トリアージに関する講義を聞いた後、実際にトリアージを経験する事で、災害超急性期で薬剤師ができることの範囲を広げ、医療班の一員としての役割を果たすことを目的とする。

プログラム（案）

ロールプレイ形式

災害に対する基礎的な講義（30分）

STARTの例題練習（講義）（30分）

トリアージタグの記載練習（30分）

小グループに分かれて START + タグの記載実習（30分）

3人一組に分かれて、一人が傷病者役、一人がトリアージ実施者、残り一人がタグ記載者を担当し、三回行ってそれぞれの役割を体験。

大グループに分かれてマストリアージ実習（30分）

参加者

150名

主催

公益社団法人 東京都薬剤師会

※参加者の途中入退場は不可。

※当日参加（人数に余裕があれば）、聴講も可能です。

※聴講のみの場合は、事前登録は不要です。聴講者の途中入退場は可。

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 41 薬剤師による糖尿病薬物療法症例検討セミナー

10月9日(月・祝) 13:00~15:00 第5会場 (東京国際フォーラム B棟5階 ホールB5(1))

座長

北里大学病院 薬剤部長・教授 厚田 幸一郎
薬局 恵比寿ファーマシー 代表取締役 佐竹 正子

ファシリテーター

杏林大学医学部付属病院 薬剤部 科長補佐 [東京都] 小林 庸子
東京都済生会中央病院 薬剤部長 [東京都] 清水 淳一
株式会社大和調剤センター 代表取締役社長 [東京都] 森 貴幸
東京証券業健康保険組合診療所 薬剤部 [東京都] 井上 享子
社会医療法人社団 正志会 南町田病院 薬局長 [東京都] 小林 仁
公立昭和病院 薬剤部長 [東京都] 本田 一春
虎の門病院 薬剤部 [東京都] 藤井 博之
横浜柏堤会 よこすか浦賀病院 薬剤科 [神奈川県] 石井由紀子
下北沢病院 薬剤科 [東京都] 堀井 剛史
東京医科大学病院 薬剤部 主査 [東京都] 坂倉 圭一
国立病院機構 村山医療センター 薬剤部 [東京都] 八代 智子
東京薬科大学 講師 [東京都] 影山 美穂

※セミナーへの参加は事前登録が必要です(聴講のみの場合は事前登録は不要です)

受付終了

開催趣旨

地域包括ケアシステムを構築する中で、高齢者の急激な増加に伴い、糖尿病患者の加速度的な増加に対して数多くの新しい糖尿病治療が進められている。その複雑化する糖尿病薬物療法の基本的な考え方を整理し、提示される幾つかの症例から糖尿病患者の療養指導上の問題点を見出し、薬剤師としてだけでなく、療養指導に携わる医療者としてどの様に関わっていけるか、グループワーク形式で考え方を学ぶ。

糖尿病療養指導士を目指している方、糖尿病薬物療法に関わっている方、その他多くの薬剤師が、疑問点を出し合いながら実際の症例を考えていくことで、日常の服薬指導等に役立つ内容となっている。

プログラム(案)

薬剤師が糖尿病療養指導に必要な症例検討をグループワーク形式で実施

参考症例

糖尿病療養指導に関する症例検討

多職種との連携に関する糖尿病の考え方

薬剤師による糖尿病療養指導ガイドブックの活用

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

参加者

100 名

主催

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会/公益社団法人 東京都薬剤師会

※受講者には参加証を発行します。

※参加者の途中入退場は不可。

※聴講のみの場合は、事前登録は不要です。聴講者の途中入退場は可能ですが、分科会の進行状況並びに、聴講人数等の関係で、入場制限等をすることもありますので、ご承知おきください。

※昼食は、各自済ませてからご参加ください。

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 43 地域を繋げる「ケア・カフェ」体験・開催方法習得ワークショップ

10月9日（月・祝） 12:30～15:00 第8会場（東京国際フォーラム D 棟 5階 ホール D5）

座長

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 委員 寺本 仁
一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会（J-HOP） 副会長 川添 哲嗣

つなげるメソッド「ケア・カフェ」開催と継続のコツを地域に持ち帰ろうー

株式会社 中央薬局/ケア・カフェ ジャパン 実行委員会 /J-HOP 実行委員 [北海道] 堀籠 淳之

※ワークショップへの参加は事前登録が必要です（聴講のみの場合は事前登録は不要です）

受付終了

開催趣旨

背景

在宅医療を支えるためには多職種連携が欠かせない。地域包括ケアシステムの中で医療・介護・福祉に携わる人々そして家族や近所の方々との連携が薬剤師にも求められている。しかし、現実には多職種と知り合う機会は少なく互いに連絡を取り合う関係になかなかないことが多い。仮に同じ研修会に出席してもシャワー型研修では会話をすることもなく終わってしまう。ケア・カフェはこの問題点を解決し、地域が有機的に繋がるための一つの手段となりうる。このワークショップではその内容を体験・体感していただきたい。

到達目標

※地域多職種連携のための「ケア・カフェ開催目的と開催方法」を理解できる。

※ディスカッションを通し、全国の仲間との「つながり」ができ、在宅医療を支える仲間同士の輪が広がる。

プログラム（案）

基調講演

ケア・カフェ・ジャパン実行委員会

Introduction 40分

chat1 35分

chat2 35分

chat3 全体共有 20分

chat4 交流 20分

参加者

100名

主催

一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会（J-HOP）/公益社団法人 東京都薬剤師会

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

※受講者には参加証を発行します。

※参加者の途中入退場は不可。

※聴講のみの場合は、事前登録は不要です。聴講者の途中入退場は可能ですが、分科会の進行状況並びに、聴講人数等の関係で、入場制限等を行うこともありますので、ご承知おさください。

※昼食は、各自済ませてから参加ください。

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

分科会 46 認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座スクーリング（全国版）

10月9日（月・祝） 12:00～15:00 第18会場（JPタワー 4階 ホール1）

司会/ファシリテータ

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員長 齋藤 公子

東京都の認知症施策について

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 認知症対策担当課長 [東京都] 上野 睦子

「何が起き、何が必要か」わたしに聴いて～役立つ施策や支援を、本人とともにつくろう～

日本認知症ワーキンググループ / とともに歩む認知症の会茨城 若年性認知症当事者 [千葉県] 平 みき

日本認知症ワーキンググループ パートナー（看護師） [千葉県] 柏木とき江

ファシリテーター

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 副委員長 [東京都] 塚原 俊夫

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 高橋たつ子

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 笠原 徳子

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 佐藤 博之

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 高田めぐみ

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 高畠 啓輔

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 [東京都] 後藤 恵子

※講座への参加は事前登録が必要です。

受付終了

開催趣旨

東京都薬剤師会 生涯学習委員会では、「くすりの専門家として認知症患者の質の高い薬物療法に貢献するのみならず、街の健康相談窓口として早期発見や家族の相談にも応じ、適切な対応をとることができる」を一般目標に掲げ、7講座からなる e-ラーニング講座を作成した。最大の特徴は、各講座がそれぞれのテーマに沿った患者や家族の語りを聴きながら進められることである。7講座を受講後に受けられるスクーリングでは、認知症の患者さんやご家族を支援するにあたっての困りごとや、うまくいったケースを共有することができ、ゲスト講師（認知症当事者ほか）のお話からは、薬剤師の役割を再認識させられると好評を博している。

本分科会では、全国の認知症サポートに注力されている方、これから取り組みたいと考えている皆さんにスクーリングを公開し、より広く情報の共有を図りたい。

第 50 回日本薬剤師会学術大会

分科会概要

プログラム (案)

ワークショップ形式

グループ討議 2 時間、講演 1 時間

1. 薬剤師への期待：

東京都福祉保健局 高齢社会対策部 認知症対策担当課長 上野睦子

2. グループ討議 I 「分かち合おう！ 困りごと、うまくいったこと」

3. 若年性認知症当事者の声

日本認知症ワーキンググループ 若年性認知症当事者 平 みき

日本認知症ワーキンググループ パートナー（看護師） 柏木 とき江

4. グループ討議 II 「認知症（疑いのある）患者さんやご家族に対して、薬剤師としてもっとできること、してみたいこと。」

5. 修了証の授与

参加者

約 80 名

主催

公益社団法人 東京都薬剤師会

※参加者の途中入退場は不可。

※受講者には修了証を発行します